

CASA新聞

木造住宅等の技能者育成や

ZEH化リフォームなど 国交省2020年度予算

国土交通省は12月20日、2020年度当初予算案をとりまとめた。臨時・特別措置を含めると6兆7363億円。自然災害に対応した安全・安心な社会づくりを目指した防災・減災、国土強靱化の取り組みや住生活環境の整備などを進める。

住宅関連では、災害に強い住まいの推進や空き家対策、既存住宅流通の活性化、住宅の質と生産性の引き上げを支援する事業を推進する。新規の省エネ改修の省エネ改修の進事業の1・5億円を付けた。

国土交通省は12月の取り組み支援の5億円の取組。既存住宅の有効活用を目的とした買取再販やリースパックの活用環境整備に3000万円、住宅セーフティネット機能強化のための居住支援活動に10・5億円を確保した。また、老朽化マンションの長寿命化改修に17億円、BIM活用の体制整備に2億円を新規に計上した。

継続事業では、工務店連携によるZEHや住宅の省エネ改修の進事業の1・5億円を付けた。

国土交通省は19年12月26日、11月の建築着工統計調査報告を発表した。新設住宅着工戸数は前年同月比12・7%減の7万3523戸で、5カ月前年比で2桁の減少は、13・2%減だった18年10月以来10カ月ぶり。新設住宅着工床面積は4カ月前年の減少となる603万6000平方メートル（同10・8%減）で、同じく1年10カ月ぶりの2桁減。季節調整

国土交通省は19年12月26日、11月の建築着工統計調査報告を発表した。新設住宅着工戸数は前年同月比12・7%減の7万3523戸で、5カ月前年比で2桁の減少は、13・2%減だった18年10月以来10カ月ぶり。新設住宅着工床面積は4カ月前年の減少となる603万6000平方メートル（同10・8%減）で、同じく1年10カ月ぶりの2桁減。季節調整

国産合板商況

国産針葉樹合板の荷動きは、木建ルートは12月に入って引き合いが落ちているが、プレカット会社等直需向けが堅調。10、11月に比べるとプレカット会社の受注はピークを越えた感もあるが、稼働は依然として忙しく、年末年始に向けて引き合いは堅調。流通各社は突発的な注文は、限られた持ち玉でやりくりしている。国内の合板工場は東西問わず生産と出荷に追われる。

11月の針葉樹合板の在庫量は11万9000立方メートル出荷量ベリで0・4カ月前の低水準。一昨年のように10万立方メートルを下回るまでではない。しかし、在庫量はトラックの問題から配送が遅れている構造用合板やフロア台板等販売の建材メーカーが決まっている製品も含まれているため、実際の浮遊玉は少ない状態が続いている。また、働き方改革による人手不足から生産量も思うように伸ばせていない。トラックも消費増税後の景気減速感に伴う物流需要の減少から、昨年末はどひっ迫しなかつたが、不足感はやや年並み。特に地方への配送には苦労している。

来年は需要環境が厳しくなると言われているなか、メーカーは生産コスト上昇要因に事欠かないだけに、値値を維持し、需給バランスの均衡を図っていく。

10月から急増も依然7万戸

次世代住宅ポイント制度

国土交通省は12月13日、11月末時点の次世代住宅ポイント制度の実施状況を公表した。消費税率が10%に引き上げられた10月から申請件数は増加傾向にあり、新築とリフォーム合わせて6万1136戸。ただ、国の目標は30万戸で、制度終了の来年3月末までに20万戸に届くか疑問視されている。

6月から始まり10月からは急増しているが、それでも11月までの新築の申請は4万1136戸（11・9%減）、リフォームの発行累計は86133戸（4億1473万9000円）、合計3万9968戸（11億1273万9000円）。

申請戸数は合計2万1772戸で、10月単月は1万7350戸（前月比119・3%増）と9月単月より約1万戸も増加した。11月分は単月で3万2422戸（同85・8%増）と、こちらも前月から2倍近くに増えた。

予算額は1300億円だが、事務経費を除くと100億円前後とされる。11月までの発行累計額を差し引くと予算は残り890億円と9割近くも残っており、ほとんど消化していない。ポイント申請期限は2020年3月31日で、それまでの着工が必要だ。新築注文住宅の場合、同1月末の契約で間に合うかどうかのタイミング。つまり、予算の半分も使わずに終了しかねない情勢にある。そのため来年の制度継続を訴える声もある。

今回のポイント制度は周知不足と言われたが、これまでの制度とは仕組みがかなり異なることにも、利用率の低下に繋がっているとの指摘もある。

22カ月ぶりの二桁減 11月の新設住宅着工

持ち家は08年以来の低水準

国土交通省は19年12月26日、11月の建築着工統計調査報告を発表した。新設住宅着工戸数は前年同月比12・7%減の7万3523戸で、5カ月前年比で2桁の減少は、13・2%減だった18年10月以来10カ月ぶり。新設住宅着工床面積は4カ月前年の減少となる603万6000平方メートル（同10・8%減）で、同じく1年10カ月ぶりの2桁減。季節調整

新築の申請は4万1136戸（11・9%減）と9月単月より約1万戸も増加した。11月分は単月で3万2422戸（同85・8%増）と、こちらも前月から2倍近くに増えた。

予算額は1300億円だが、事務経費を除くと100億円前後とされる。11月までの発行累計額を差し引くと予算は残り890億円と9割近くも残っており、ほとんど消化していない。ポイント申請期限は2020年3月31日で、それまでの着工が必要だ。新築注文住宅の場合、同1月末の契約で間に合うかどうかのタイミング。つまり、予算の半分も使わずに終了しかねない情勢にある。そのため来年の制度継続を訴える声もある。

今回のポイント制度は周知不足と言われたが、これまでの制度とは仕組みがかなり異なることにも、利用率の低下に繋がっているとの指摘もある。

表示説明	値下げ 🌞 横ばい ☁️ 値上げ ☔
市況状況	ファルカタ薄ベニヤ・・・ ファルカタ正寸12mm T2・・・ 針葉樹12mm 3×6・・・

2020

 昨年中は格別のご厚情にあずかり厚く御礼申し上げます。本年もよろしくご愛顧のほど、お願い申し上げます。
 カーザミカワ社員一同